



ドキュメンタリー作家



羽田澄子



N F C 京橋 映画 小ホール 小劇場 No.34
 KYOBASHI-ZA

2016年8月9日(火) - 8月28日(日)

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

各回の開映後の入場はできません。

定員=151名(各回入替制)

発券=地下1階受付

料金=一般520円 / 高校・大学生・シニア310円 / 小・中学生100円 /

障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

- ・観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- ・発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

長瀬映像文化財団

フィルムセンターは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

小ホール
上映作品

ドキュメンタリー作家
羽田澄子
Sumiko Haneda:
A Documentary Filmmaker

フィルムセンターは《京橋映画小劇場》第34回企画画として、2009年の「ドキュメンタリー作家 土本典昭」以来7年ぶりに、日本の優れたドキュメンタリー映画監督の歩みを回顧する特集を開催します。今回は、1950年代から現在まで、幅広い対象を粘り強くとらえ続け、日本の社会や文化に新たな視座を提供している羽田澄子監督を取り上げます。

羽田監督は1926年、大連に生まれ、旅順の小学校と女学校を卒業後、1942年に東京の自由学園に進学、3年後に卒業して再び大連に戻り、同地で敗戦を迎えます。敗戦後は、大連日本人労働組合の婦人部で活動した後、1948年に引き揚げます。翌49年、自由学園時代の師・羽仁説子の薦めで岩波書店の中谷宇吉郎研究室に入り、名取洋之助や羽仁進らと共に「岩波写真文庫」の編集に当たります(翌50年、同研究室は岩波映画製作所に改組)。1953年、羽田は羽仁進の誘いで映画製作に転身し、羽仁の監督した『教室の子供たち』(1954年)などに助監督として就いた後、1957年、農村の婦人たちがグループ学習を行う様子を追った『村の婦人学級』で監督デビューします。以後、岩波映画で1982年に定年退職するまで、数多くのPR映画・教育映画・科学映画の演出・脚本・構成・編集を手がけました。

その一方で羽田は、1977年、夫でプロデューサーである工藤充と共に初の自主映画『薄墨の桜』を完成させ、岩波ホールで行われた上映会が成功したことをきっかけに、記録映画作家として新たな道を切り拓いていきます。1981年に工藤が自由工房を設立して以降は、同プロダクションを拠点に、岩手県北上山地の麓で継承されている山伏神楽を追った大作『早池峰の賦』(1982年)や、認知症高齢者の日常を追った先駆的なドキュメンタリー『痴呆性老人の世界』(1986年、企画製作は岩波映画)、十三代目片岡仁左衛門の最晩年の至芸を追ったりと捉えた『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』六部作(1992-94年)などの話題作を次々に発表します。また近年は、自身のルーツを見つめ直すかのように、旧満洲地域への旅を自身の語りと共に記録しています。羽田の一眼オーソドックスに見える記録映画は、しかし実のところ、さまざまな技法の実験や工夫に満ち、また、対象との真摯で妥協しない交わりを基にした、芯の通った演出によって貫かれています。その歩みは、日本のドキュメンタリー映画に豊かで大きな実りをもたらしてきました。

本特集は、羽田監督のデビュー作から最新作まで、計26作品を18プログラムに組んで上映し、その足跡をたどる格好の機会となります。ぜひご来場ください。

●《京橋映画小劇場》とは

平成18(2006)年度よりフィルムセンターは、それまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを、《京橋映画小劇場》(KYOBASHI-ZA)の名のもと、年に数回、フィルムセンターの主催上映企画にも利用し、さらなる上映活動の拡充を図っています。

フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に、外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ、多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

1 8/9(水)2:00pm 8/20(土)11:00am

村の婦人学級(25分・16mm・白黒)

4年間の助監督生活を経た羽田の初演作品。滋賀県の農村を舞台に、これまで因習によって家庭の中で発言する機会を持たなかった婦人たちが一所に集い、学校教育とつながることで子どもたちをより深く理解するとともに、新時代の考え方にも目覚めてゆく。撮影にあたっては、時間をかけて地元の人々の理解を得、映画作りと並行して婦人学級も組織化されたという。

1957 企画：文部省 | 製作：岩波映画 羽田澄子 小口禎三 小村静夫 櫻井善一郎

古代の美(22分・16mm・白黒)

縄文・弥生・古墳時代の土器や土偶などを紹介しながら、当時の人々の生活感情に迫ろうとした初期の代表作。ラストでは本物の埴輪を使い、躍動感あるモンタージュと巧みな音楽構成で古代人の生活を再現したが、そのために作曲の矢代秋雄とは古代美術を学ぶところから共に行動したという。動かないものに生命を与える演出は、その後も羽田の作品歴に脈々と息づいている。

1958 企画：東京国立博物館 | 製作：岩波映画 羽田澄子 吉野警治 藤瀬季彦 高木潔 片山幹男 矢代秋雄 篠田英之介

伊勢志摩の旅(20分・16mm・カラー)

伊勢神宮の解説に始まり、塩作りや真珠の養殖、そして海女たちの仕事ぶりを紹介する観光映画。郷土の歴史と現代の姿をともに提示している。

1966 企画：三重県、三重県観光連盟、伊勢志摩国立公園協会 | 製作：岩波映画 羽田澄子 松山広昭 小村静夫 櫻井善一郎 高橋征郎

もんしろちょう 一行動の実験的観察一
(27分・16mm・カラー)

動物行動学者の日高敏隆に指導を仰ぎ、モンシロチョウの行動の謎をテンポよく構成された複数の実験で明らかにしてゆく羽田の自主企画。チョウの育成の煩雑さと撮影の長期化で一度は製作がピンチに陥ったが、テレビシリーズ「たのしい科学」など岩波映画の科学映像を牽引する牧衷とともに完成にこぎつけた。実際のチョウの行動は日高やスタッフの予想を裏切ることも多く、撮影対象が映画作りのメソッドを問い続ける点でも斬新だった。デザイン性の高いカラフルな実験装置も注目に値する。

1968 企画製作：岩波映画 羽田澄子 牧衷 関晴夫、根岸栄、岡田久 岡本光司 三木稔 黒沢良



狂言



法隆寺献納宝物

2 8/9(水)6:00pm 8/21(日)11:00am

風俗画 近世初期(23分・35mm・カラー)

初めて庶民が絵に描かれるようになった戦国時代を民衆文化の昂揚期と捉え、「洛中洛外図」などの作品を通じて風俗画の世界を探究する。当初遠くから見た時はこれらの絵に興味を感じなかった羽田だが、小さな人物がうごめく細部を凝視することでその魅力に目覚めたという。現にこの映画でも、細部のクローズアップをたたみかけるとして絵の活劇性に迫り、作品がたたえるユーモアを描出している。

1967 企画：東京国立博物館 | 製作：岩波映画 羽田澄子 田中清廣 小村静夫 久保田幸雄 間宮芳生 丹阿彌谷津子

狂言(37分・35mm・カラー)

中世の民衆演劇の高度な洗練として狂言の世界を解説し、人間国宝六世野村万蔵、三世茂山千作らの芸と向き合うとともに、地方に残る郷土狂言にも取材している。著名な演目を見せるだけでなく伝承の側面にも注目、若手への熱の入った指導の現場にもレンズを向けた。

1969 企画：文化庁 | 製作：岩波映画 羽田澄子 高村武次 西尾清 安田哲男 野村万蔵、茂山千作、茂山千五郎、茂山千之丞、野村万之丞、野村万作、野村悟郎、水上勇一、野村耕介 奈良岡朋子

法隆寺献納宝物(20分・35mm・カラー)

明治初期に法隆寺から皇室に献納され、現在は東京国立博物館の所蔵となっている飛鳥・奈良時代の工芸品や仏像などを紹介する一篇。その演出スタイルは羽田の作風には珍しく実験的で、観客を博物館へ導く少女が出現するとともに、宝物たちの歴史を語る男と、詩の言葉でその世界を彩る少女のダブル・ナレーションで進んでゆく。詩は羽田の妹であるフランス文学者・近藤矩子によって書かれた。

1971 企画：東京国立博物館 | 製作：岩波映画 羽田澄子 堀谷昭 西尾清 諏訪淳 安田哲男 矢代秋雄 近藤矩子 岡田英次、二本木てらみ

BAMBOO(竹と日本人)

(14分・35mm・カラー・英語版・日本語字幕付)
日本人と竹との四季を通した多様な関わりを海外向けに紹介したPR映画。柔らかく新鮮な旬料理、竹かごや傘など職人が作る美しい日用品、また、竹垣をはじめ日本の家屋や庭の至る所で用いられ、祭りにも登場する。国際観光振興会の企画によって英語、米語、仏語、独語、スペイン語、ポルトガル語の各バージョンが作られた。

1975 企画：国際観光振興会 | 製作：岩波映画 羽田澄子 高橋宏暢 根岸栄 宮崎尚志

3 8/10(水)2:00pm 8/20(土)3:00pm

ふゆにくさはどうなるか

(20分・16mm・カラー)
ヒマワリやオシロイバナ、アブラナなど冬越えする植物のそれぞれの生態をとらえた小学生向けの理科教材映画。日本映画教育協会の企画で、撮影は東京都文京区立真砂小学校で行われた。

1973 企画：日本映画教育協会 | 製作：岩波映画 羽田澄子 鈴木光枝 金重義宏 関晴夫、中谷英雄 佐久間俊夫 内山森彦

篆刻・刻字 生活書の学習のために

(22分・16mm・カラー)
高校の書道の教科書において「生活の中の書」で取り上げられている篆刻と刻字を解説した教材映画。刻字家の香川峰雲と篆刻家の小林斗盞が作品を制作する過程を紹介することによって、学生たちの正しい理解を深める。

1975 企画製作：岩波映画 羽田澄子 田村勝志 西尾清 三木稔

薄墨の桜

(42分・16mm・カラー)
羽田が岩波映画に在籍しながら4年をかけて撮った、記念すべき自主製作作品。岐阜県根尾村(現在は本巣市根尾谷)に立つ樹齢1400年の桜に魅せられた羽田は、『法隆寺献納宝物』と同様に妹・近藤矩子に詩を書いってもらって映画を撮るつもりだったが、近藤は1972年に早逝。だがそれをきっかけとして羽田は、自分の作りたい映画を作る必要性に駆られ、本作で自主記録映画作家としての第一歩を踏み出すことになる。

1977 羽田澄子 工藤充 西尾清、瀬川順一、若林洋光 片山幹男 藤岩崎光治 香椎くに子

4 8/10(水)5:30pm 8/21(日)3:00pm

はやちねふ
早池峰の賦(184分・16mm・カラー)
『薄墨の桜』を撮り、作りたいものを作ることに目覚めた羽田は、次に岩手県大迫町に向かい、そこに伝わる山伏神楽とそれを守り続ける人々にカメラを向ける。大嶺と岳の二つの集落が競い合う、華麗でダイナミックな神楽の記録もさることながら、人々が早池峰の厳しい自然と共に生き、信仰を守り続ける姿が、四季を通じて丸ごととらえられることによって、「芸能」の原初の姿が浮かび上がるさまが素晴らしい。芸術選奨文部大臣賞受賞。

1982 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎西尾清、瀬川順一、若林洋光、西山東男、田代啓史、内藤雅行、下平元巳、千葉寛◎久保田幸雄◎秋山邦晴◎大方ひさ子

5 8/12(金)2:00pm 8/23(火)6:00pm

AKIKO ーあるダンサーの肖像ー
(107分・16mm・カラー)
モダン・ダンスの第一人者、アキコ・カンダが公演に臨み、自分のダンス人生や生活、家庭観などを語る。当初は公演記録をメインにした50分の作品を予定していたが、工藤の「勝負は舞台のあとにある。僕たちはもって稽古場に通おう」という言葉から長篇へと変貌、撮影は7か月に及んだ。ラスト近く、アキコのダンスに合わせて写真家・篠山紀信が舞うようにシャッターを切り、さらにはその二人を流麗なカメラワークがつかまえるシーンは特に印象的。

1985 企画：アキコ・カンダ事務所 | 製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎宗田喜久松、若林洋光、田代啓史、高橋達美◎滝沢修、栗林豊彦◎高橋アキ◎アキコ・カンダ◎市川紅美、三沢恵子、森比呂美、色部真美子、勝谷真寿美、相澤ひろみ、星川喜美子、鈴木めぐみ

6 8/11(木)11:00am 8/19(金)2:00pm

痴呆性老人の世界(84分・16mm・カラー)
1982年に岩波映画を定年退職した羽田は、翌年、田辺製菓の企画による49分の学術映画『痴呆老人の介護』を岩波映画の依頼で撮影した。そこで直面した現実の重さを一般の人にも知ってもらおうと、羽田は岩波映画に長篇の製作を提案し、本作が完成した。岩波ホールで8週間に及ぶ大ヒットを記録し、認知症高齢者の日常とケアの問題がオープンになるきっかけを作った。また、老々たちの生を凝視することで、「痴呆性ゆえに鮮やかに発色する女の存在感と質感、感性のやさしさと心の美しさが澄明にとらえられている」(土本典昭)とも評された。

1986 企画製作：岩波映画◎羽田澄子◎河上裕久、宅間由美子◎西尾清◎久保田幸雄、滝沢修◎齋藤季夫

7 8/11(木)3:00pm 8/19(金)6:00pm

安心して老いるために
(152分・16mm・カラー)
『痴呆性老人の世界』で描かれた高齢化社会の問題を解決するには、家族や医療従事者の努力に加え、介護を保障する社会制度の充実が必要とされる。そう感じた羽田は、国内の先行事例として、岐阜県池田町の特別養護老人ホーム「サンビレッジ新生苑」と自治体の取組みを取材し、それを福祉先進国のデンマーク、スウェーデン、オーストラリアの社会福祉制度、とりわけ在宅ケアシステムと対比することによって、「安心して老いるためには日本ではどのようなシステムが必要かを訴えた。山路ふみ子福祉賞受賞。

1990 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎西尾清◎瀧澤修◎朝倉慎◎高橋アキ◎喜多道枝

8 8/16(火)2:00pm 8/25(木)6:00pm

女たちの証言 ー「労働運動のなかの先駆的的女性たち」ー
(94分・16mm・カラー)
1982年、社会主義研究者・石堂清倫の呼びかけで座談会がもたれ、山内みな、福永操、丹野セツ、錦山歌子、大竹一燈子といった大正から昭和戦前期にかけて活躍した社会主義運動家やその妻たちが集まった。羽田は、戦後大連で石堂の下で働いたことが縁で、その記録を頼まれた。彼女たちの肉声と表情から、進歩的だった労働運動の内部に存在した性差別などの実態が見えてくる。作品の完成は、1991年のソ連崩壊を挟み、最初の撮影から14年後だった。

1996 企画：映画「労働運動のなかの先駆的的女性たち」の会 | 製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎瀬川浩、宗田喜久松◎瀧澤修、田辺信通◎湯浅讓◎高橋アキ◎喜多道枝

9 8/14(日)11:00am 8/26(金)2:00pm

住民が選択した町の福祉
(129分・16mm・カラー)
秋田県米代川流域の人口2万3000人の鷹巣町。1991年に当選した若き町長の岩川徹は、福祉先進国デンマークで行われている住民参加の福祉行政を参考に、町民の自由参加によるワーキンググループを組織、鷹巣町を日本一の福祉サービスの町にしようと奮闘していた。しかし、彼が提出した先駆的な老人保健施設「ケアタウンたかのす」の構想は、町議会の多数を占める前町長派の反対に遭う。撮影は1995年春から開始し、ケアタウン構想が住民パワーに後押しされたかたちで議会を1票差で可決するまでの約1年を追う。

1997 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎西尾清、宗田喜久松◎瀧澤修◎高橋アキ◎喜多道枝

10 8/14(日)3:00pm 8/26(金)6:00pm

ー続 住民が選択した町の福祉ー
問題はこれから です
(125分・16mm・カラー)
1999年、「ケアタウンたかのす」が完成し、当時の日本の状況においてはレベルの高い在宅複合型施設が実現した。本作では前作に引き続き、3期目を迎えた町長の推進する福祉の町づくりを追いかけるとともに、手厚い福祉が町の財政を圧迫すると主張する反町長派議員の動向もとらえる。

1999 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎西尾清◎瀧澤修◎高橋アキ◎喜多道枝

11 8/13(土)11:00am 8/25(木)2:00pm

元始、女性は太陽であった
平塚らいてうの生涯
(140分・16mm・カラー)
1911年、女性だけによる文芸誌「青鞥」の創刊により日本の女性解放運動の先駆けとなった平塚らいてう(1886-1971)。「その名をきくと、すべての女性の心に灯りがともる」という羽田が、らいてうの思想形成の原点になった禪の体験から読み起し、らいてうの一人称の語りとスチール写真によって、彼女を突き動かした時代の姿を再構築した。企画は1998年に「平塚らいてうの記録映画をつくる会」から高野悦子を通じて羽田に持ち込まれた。平和運動に帰結したらいてうの生き方は、軍国主義の時代に青春を送った羽田の反戦への思いと重なる。

2001 企画：平塚らいてうの記録映画をつくる会 | 製作：自由工房◎羽田澄子◎青木生子◎宗田喜久松◎星楚恵子◎朝倉慎◎瀧澤修◎湯浅讓◎喜多道枝、高橋美紀子

12 8/16(火)6:00pm 8/28(日)11:00am

やまなかときわ
山中常盤(100分・35mm・カラー)
近世初期の絵師岩佐又兵衛による絵巻「山中常盤」の映像化。新たに作曲した浄瑠璃のリズムに合わせて全12巻、150mにもなる作品を横スクロールで撮影、数々の印象的なクロスアップとともに牛若丸と母・常盤御前の物語がダイナミックに展開する。特に盗賊に襲われた常盤御前が息を引き取る場面は、絵の持つ荒々しい筆遣いを活かし、固定した素材を緊張感に満ちたドラマに昇華させている。絵巻物の映像化は羽田にとって『風俗画 近古初期』の頃から長い念願であり、1992年の撮影から12年後に完成させた粘りの一作でもある。

2004 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎若林洋光、宗田喜久松◎朝倉慎◎瀧澤修◎味津鶴清◎作楽◎飯打山波清彦◎藤田豊彦◎勢大丈◎高橋アキ◎片岡京子◎喜多道枝

13 8/17(水)2:00pm 8/27(土)11:00am

あの鷹巣町のその後 前後編
(180分・DCP・カラー)
『住民が選択した町の福祉』正統篇に続く第3作。高齢者福祉行政の中心人物であった岩川町長が、2003年夏の町長選挙で大敗した。対立候補は手厚い福祉が財政を圧迫すると訴え、町村合併による財源確保の重要性を主張、その結果、近隣町村を合併して2005年春、北秋田市が誕生した。住民合意に支えられていたはずの鷹巣町に何が起きたのか。伝える責任を痛感した羽田は、自らの言葉でナレーションも手がけ、「福祉の記録」から「政治の記録」に変貌していく様子をスリリングに追った。

2005 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎宗田喜久松、西尾清、相馬健司◎瀧澤修◎高橋アキ◎イライツ◎加登晴々子

14 8/17(水)6:00pm 8/27(土)3:00pm

あの鷹巣町のその後 ー続編ー
(59分・DCP・カラー)
北秋田市誕生後、最初の市議会議員選挙を経て、市の社会福祉行政が混迷を深める中、羽田はさまざまな立場の市民や関係者に取材し、丹念に記録した。鷹巣町が国に先駆けて制定した「高齢者安心条例」が廃止され、財政支援を打ち切られた「ケアタウンたかのす」の運営が苦境に立たされる状況からは、政治に翻弄され壊されていく人々の暮らしや思いが浮かび上がってくる。

2006 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎宗田喜久松、相馬健司◎瀧澤修◎高橋アキ

15 8/18(木)6:00pm 8/23(火)2:00pm

終りよければすべてよし
(129分・DCP・カラー)
高齢化社会において人はどのような死を選択すればよいのか。老後の生を見つめて続けてきた羽田が最終的に行きつきたのは、病院ではなく自宅で安らかな死を迎えるために何か必要かという終末期ケアの問題だった。その実現には優れた在宅医療システムの整備が求められる。厳しい状況の日本において行われている先駆的な例とともに、オーストラリアとスウェーデンで社会制度に支えられる形で機能している医療介護サービスが紹介される。

2006 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎西尾清◎高橋アキ◎喜多道枝

16 8/13(土)3:30pm 8/24(水)2:00pm

嗚呼 満蒙開拓団(120分・35mm・カラー)
1932年の満洲国建国以来、国策によって中国大陸に送り込まれた多くの日本人移民は、敗戦後、遺棄されたも同然の悲惨な運命をたどる。1980年代に「中国残留日本人孤児」の訪日調査が始まり、国家賠償請求訴訟へと発展した。本作は裁判で請求が棄却された場面から始まり、監督が現在の中国東北部にある中国人によって建てられた「方正地区日本人公墓」への日本人ツアーに同行する姿を追う。大連で生まれ、戦後の引き揚げ体験をもつ羽田の視点は、歴史の現実を追求しながらも、日中双方の体験者への温かいまなざしに満ちている。

2008 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎相馬健司◎高橋アキ◎喜多道枝

17 8/18(木)2:00pm 8/28(日)3:00pm

遙かなる ふるさと ー旅順・大連ー
(110分・DCP・カラー)
羽田にとって、少女時代を過ごした旅順は、帝政ロシア時代の面影を残す「懐かしいふるさと」であったが、中国にとつて重要な軍港であったため、日中国交回復後も渡航は困難だった。ようやく2009年、羽田は全面開放された旅順への日本人ツアーに参加し、当時のまま残っているかつての自分の家を訪れる。そこで、統治者の交代による複雑な歴史に直面するとともに、発展する現在の中国の姿も目の当たりにする。

2011 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎相馬健司◎瀧澤修◎高橋アキ

18 8/12(金)6:00am 8/24(火)6:00pm

そしてAKIKOは… ーあるダンサーの肖像ー
(120分・DCP・カラー)
『AKIKO ーあるダンサーの肖像ー』(1985)を作った後も、羽田とアキコの交流は途切れることなく続いていた。2010年の公演「愛のセレナーデ」を撮影した羽田は、アキコが病に倒れたことを知る。そして、翌年のリサイタル「花を咲かせるために バルバラを踊る」を超人的執念によって為し遂げたアキコは、75歳の生涯を閉じた。苦しい闘病生活の中で自らのダンスを作り上げていく姿は、ダンスが信仰でもあり哲学でもあったアキコの生を浮き彫りにする。

2012 企画製作：自由工房◎羽田澄子◎工藤充◎宗田喜久松、河川浩一郎◎瀧澤修◎高橋アキ◎アキコ・カンダ◎アキコ・カンダ ダンスカンパニー

■年は製作年を記載しています。
■◎=監督・演出 ◎=製作 ◎=脚本 ◎=撮影 ◎=美術 ◎=録音 ◎=音楽・音楽監督 ◎=出演 ◎=解説・ナレーション
■記載した上映分は、当日のものと多少異なることがあります。

月	火	水	木	金	土	日
8月	1 2:00pm 村の婦人学級 他 (計94分)	3 2:00pm 薄墨の桜 他 (計84分)	6 11:00am 痴呆性老人の世界 (84分)	5 2:00pm AKIKO -あるダンサーの肖像- (107分)	11 11:00am 元始、女性は太陽であった 平塚らいてうの生涯 (140分)	9 11:00am 住民が選択した町の福祉 (129分)
	2 6:00pm 風俗画 近古初期 他 (計94分)	4 5:30pm 早池峰の賦 (184分)	7 3:00pm 安心して老いるために (152分)	18 6:00pm そしてAKIKOは… -あるダンサーの肖像- (120分)	16 3:30pm 嗚呼 満蒙開拓団 (120分)	10 3:00pm 一統 住民が選択した町の福祉- 問題はこれからです (125分)
	8 2:00pm 女たちの証言 -「労働運動のなかの先駆的女性たち」- (94分)	13 2:00pm あの鷹巣町のその後 前後編 (180分)	17 2:00pm 遙かなる ふるさと -旅順・大連- (110分)	6 2:00pm 痴呆性老人の世界 (84分)	1 11:00am 村の婦人学級 他 (計94分)	2 11:00am 風俗画 近古初期 他 (計94分)
	12 6:00pm 山中常盤 (100分)	14 6:00pm あの鷹巣町のその後 一統編- (59分)	15 6:00pm 終りよければすべてよし (129分)	7 6:00pm 安心して老いるために (152分)	3 3:00pm 薄墨の桜 他 (計84分)	4 3:00pm 早池峰の賦 (184分)
	15 2:00pm 終りよければすべてよし (129分)	16 2:00pm 嗚呼 満蒙開拓団 (120分)	11 2:00pm 元始、女性は太陽であった 平塚らいてうの生涯 (140分)	9 2:00pm 住民が選択した町の福祉 (129分)	13 11:00am あの鷹巣町のその後 前後編 (180分)	12 11:00am 山中常盤 (100分)
	22 6:00pm AKIKO -あるダンサーの肖像- (107分)	18 6:00pm そしてAKIKOは… -あるダンサーの肖像- (120分)	8 6:00pm 女たちの証言 -「労働運動のなかの先駆的女性たち」- (94分)	10 6:00pm 一統 住民が選択した町の福祉- 問題はこれからです (125分)	14 3:00pm あの鷹巣町のその後 一統編- (59分)	17 3:00pm 遙かなる ふるさと -旅順・大連- (110分)

小ホール

■作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。

■羽田澄子監督トーク・イベントのお知らせ

▶8月13日(土) 1:25pm

*入場無料(当日1回目の上映をご覧になった方は、そのままトーク・イベントに参加することができます。トーク・イベントのみの参加もできます。)

展示室(7階)

【企画展】

角川映画の40年

Forty Years of Kadokawa Pictures

2016年7月26日(火) - 10月30日(日)

*月曜日、9月5日(月) - 9日(金)は休室。

詳細は当該チラシまたはNFCホームページをご覧ください。

【常設展】企画展に併設

NFCコレクションでみる 日本映画の歴史
Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFC Non-film Collection

開室時間=午前11時-午後6時30分(入場は午後6時まで)
料金(企画展・常設展共通)=一般210円(100円) / 大学生・シニア70円(40円) / 高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。

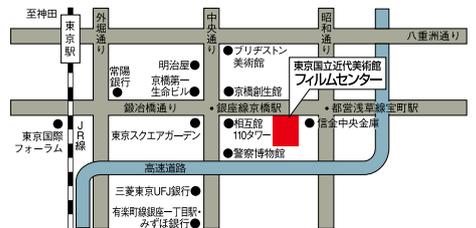
* フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



常設展ギャラリー・トーク
毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)
8月6日



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600
NFCホームページ: <http://www.momat.go.jp/>

表紙:(上段左から)『薄墨の桜』、『AKIKO -あるダンサーの肖像-』、『早池峰の賦』(中段)『嗚呼 満蒙開拓団』撮影中の相馬健司カメラマンと羽田監督、工藤充氏と羽田監督(下段)『安心して老いるために』、『山中常盤』、『嗚呼 満蒙開拓団』